

令和5年度 光市の教育

● 一人ひとりを大切にする教育

本市では、様々な形で配慮や支援を必要とする児童生徒への対応を行うことで、一人ひとりのニーズに沿った教育をめざしています。

「光っ子サポーター」

きめ細かな指導や支援を行う光っ子サポーターを、これまでの21名から26名に増員して配置しています。

出向いてアプローチ、つながる、つなげる支援



スクールライフ支援員

「まなびばひかり」「あそびばひかり」

市立図書館2階の「教育支援センター まなびばひかり」において、様々な理由により教室に入ることが難しくなった児童生徒への支援を行っています。また、様々な体験活動や遊びをとおして、生活習慣の確立や将来の社会的自立への動機付けを図る「あそびばひかり」の取組を月1回程度開催しています。

教育支援センター



【対象となる児童生徒】
・学習意欲はあるが教室に入ることが難しい児童生徒
【ねらい・内容】
・SL支援員との個別学習
・一人一台端末を活用した遠隔授業
・自主学習
・ふれあい活動 ……など
【支援日】
・毎週月～金曜日

● 小中一貫教育の推進

本市では、各中学校区において、小・中学校9年間を見通した教育目標と15歳段階での「めざす子ども像」を設定及び共有しながら、系統性・連続性に配慮した小中一貫教育を推進しています。さらに、この小中一貫教育における教育効果を高めるため、中学校区をひとまとまりにした施設一体型小中一貫ひかり学園の新設をめざすこととしており、その第1期として、令和10年度を目途に「施設一体型小中一貫やまと学園」を設置することとしています。

「やまと学園構想」

施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会では、「子どもが主役」「多様な学び場」「地域の拠点」「個性を生かせる」「伝統を大事にする」など、めざす学園像のキーワードが出され、活発な協議が続いています。

また、協働的な学びの充実に向けて早期の小学校再編を望む声が地域や保護者からあがったことから、準備委員会での協議を経て、施設一体型小中一貫やまと学園の新設に先行して、4小学校（三輪小、岩田小、塩田小、東荷小）の再編を行うこととしています。

4小学校再編

- ◆ 再編の時期 : 令和7年4月1日
- ◆ 再編の場所 : 現在の岩田小学校の場所

施設一体型小中一貫やまと学園の新設

- ◆ 新設の時期 : 令和10年度頃
- ◆ 新設の場所 : 現在の大和中学校の場所

● 中学校部活動改革の推進

「光市中学校部活動の地域移行に係る基本的な考え方」では、部活動は、活動の運営主体となる地域団体等の体制が整った活動から順次地域移行することとしています。

令和6年度に中学校に入学される児童のみなさんや保護者の方々には、中学校の入学説明会において、次年度以降の部活動改革の在り方について説明させていただくこととしています。



学校で働いてみませんか

教育委員会では、教壇に立ってくださる方、子どもたちをサポートしてくださる方を広く募集しています。今年度から、教員免許状が不要なサポーターの任用もはじめました。お問い合わせは、光市教育委員会学校教育課（Tel 0833-74-3602）まで



教育理念「連携と協働で育む 光の教育」

市内のある小学生が、学校で行われたサマースクールに参加した時のことを作文にしてみました。

「サマースクールでは、国語と算数のプリントの問題を解いて一年生から五年生までの復習をします。毎年、サマースクールに地域の方が来てくださり、丸付けのボランティアをしてくださいます。作文には、身近な人や地域の人たちに支えられていることへの気づきとともに、今年は、その中に高校三年生のお兄さんの姿もあり、とても嬉しかったと綴られていました。

さらに、次のように述べられていました。「もう一つ印象に残ったことは、ボランティアに来てくださった地域の方が兄の顔を覚えていて話しかけられていたことです。なぜ兄のことを知っていたのかというと、これまで兄は色々なボランティアに参加していてよく出会っていたからだと思います。それを聞いて、地域の活動に参加することは、ボランティア活動によって地域をよりよくするだけでなく、地域の方とのよりよい人間関係をきずくことにもつながると思いました。」

改めて、このような日常の体験一つ一つが、子どもの心を動かし、自己の考えを芽生えさせ、やがて、思いやりや主体性や生きて働く知恵を兼ね備えた豊かな人間性へとつながっていくことに気づかされます。子どもたちがこれから生きていく社会は、複雑で、ますます先の見通しの難しい世の中となるでしょう。こうした中で、自らの人生を切り拓き、また、よりよい社会の担い手となるよう、心豊かでたくましい子どもたちを育てていくことは、私たち誰もが願うところです。

これからも、子どもたちを真ん中にして、学校・家庭・地域が一つになって子どもたちを応援していきながら、「連携と協働で育む 光の教育」をより一層前進させていくことができますよう、皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

光市教育委員会教育長 伊藤 幸子

令和5年度 教育フォーラム in 光 「私たちが創る未来のひかり」

フォーラム
映像視聴用
web ページ



8月23日(水)の午後、光市民ホールにおいて第16回となる「教育フォーラム in 光」を開催しました。このフォーラムは、本市教育の現状や取組を公開し、これからの教育の在り方を共有し考える機会として毎年この時期に実施しているものです。

当日はオンライン中継も行い、会場に参加された方のほかに、多くの市民の皆様にご視聴いただきました。



地域・保護者・自分たち3世代を縦横につなげたい

地域・保護者・自分たちの3世代が、縦にも横にもつながることが大切。

やっぱりあったかい、安心できる市であってほしくて、そのためには地域の人とすれ違った時に挨拶するとか、ちょっと話すとか、そういうのを私たち自身も行い、後輩にもつないでいきたい。



オープニング

2つの木陰を併せ持つ地域社会に



市川市長からは、子どもたちが人間として成長でき、子どもたちが育ちたいと望む地域社会には、豊かな自然が作り出す緑が織りなす木陰と、人間と人間の温かい絆が織りなす木陰が必要とお話がありました。

木村市議会議員からは、教育は学校や家庭・地域が連携し協働して取り組む未来への投資であり、光市の将来、国の未来を築いていく子どもたちのために、光市議会としても尽力したいとのご祝辞をいただきました。



教育は未来への投資

第2部 座談会「私たちが創る未来のひかり」 ～地域や社会とのかかわりの中で学んだこと～

地域とのつながりを大切にしています



中高生、地域の方による座談会では、まず各中学校から、「どの学校にも負けなくらい地域とのつながりが強いと思っています」、「つながり日本一です」などの思いとともに取組事例が紹介されました。

これからも主体性をもって挑戦したい



主体性をもって、若い世代が市を動かすっていうのがすごい大事。

動かすっていうのが無理でも、考え続けること！

身近なところでも大事にしながら、地域ごとに行っている活動を一緒に行える場があったらいい。

市全体の中高生が自分たちの市をどうしていきたいかっていうのを話し合うのもいいのでは。

皆さん方は自分たちが地域の一員であることを誇りに思ってください。

第1部 光市の教育について

令和5年度 3つの重点 光市教育委員会



教育委員会学校教育課から、確かな学力を育む教育、一人ひとりを大切にする教育、中学校の部活動の地域移行の状況等、市が進めている学校教育に関する説明がありました。

市教研の取組紹介



市内幼・小・中学校の教職員で構成される光市教育研究会の会長から、研究組織や研究の取組について説明がありました。

教育開発研究所から、組織や研究内容の説明と、取組の一つである高校生による「ひかり探Qプロジェクト」の実践報告がありました。

実践報告では、「光市に魅力ある体験で人をもっと呼びたい!!」をテーマに、「海」「旬」をキーワードにした提案がありました。

海を舞台に「旬」×「魅力ある“体験”」



子どもを主語にした教育を



進行



フォーラムの進行は、光高校生徒が担当しました。

座談会の指導助言者でもある、山口大学教職大学院教授 松田 靖 先生から講評を受けました。

未来を創る主役である中高生が自身の言葉で未来の光について積極的に語ったことのすばらしさや、子どもを主語に教育課程を考えることの重要性について話されました。最後に光市の進めるコミュニティ・スクールの成果についてコメントをいただきました。

エンディング

中高生の主体的な姿に感じる成長



伊藤教育長が、座談会での中高生の主体的な姿に、未来の創り手としての成長を感じるとともに、学校・家庭・地域の連携・協働の中で、成長の足場ができることを改めて実感したと述べ、会を締めくくる挨拶をしました。